

No. 17

平成 15 年度草の根技術協力事業
(草の根協力支援型・地域提案型)
事前調査報告書
(ブラジル連邦共和国)

JICA LIBRARY



1174664【1】

平成 15 年 10 月

独立行政法人国際協力機構
兵庫国際センター

兵庫セ

JR

03-2

No.

平成 15 年度草の根技術協力事業
(草の根協力支援型・地域提案型)
事前調査報告書
(ブラジル連邦共和国)

平成 15 年 10 月

独立行政法人国際協力機構
兵庫国際センター

兵庫セ

JR

03-2



1174664(1)

平成15年度草の根技術協力事業
(草の根協力支援型・地域提案型)事前調査報告書
(ブラジル連邦共和国)

目次

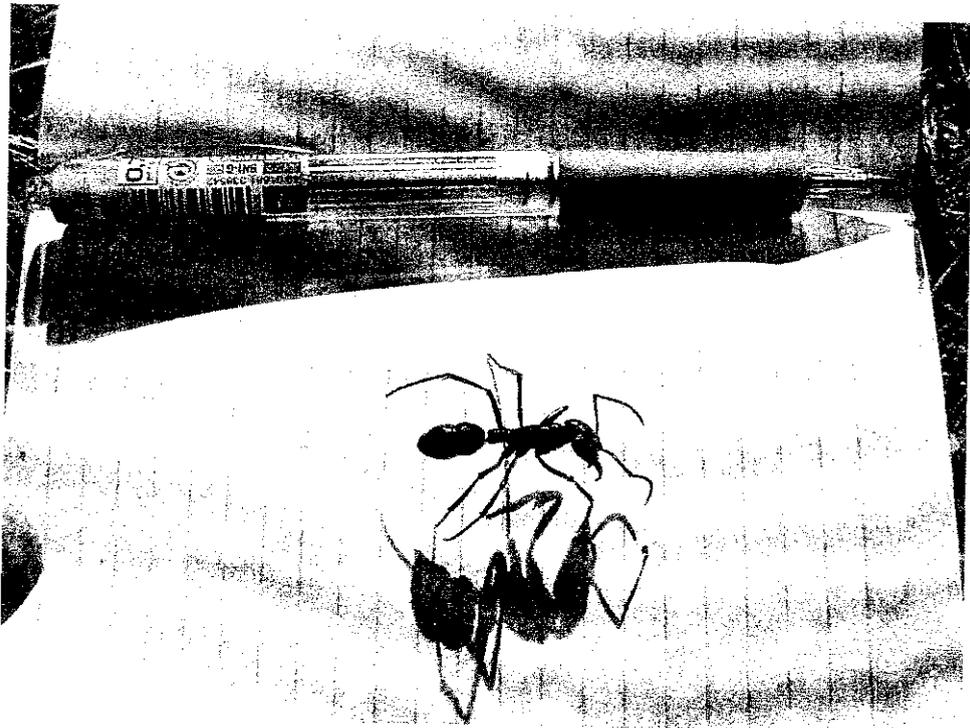
I	調査概要	
I-1	調査目的	1
I-2	調査項目	2
I-3	メンバー	2
I-4	日程	3
II	調査結果要約	
1	アマゾン自然学校プロジェクト (草の根技術協力支援型)	4
2	パラナ州沿岸地域の環境保全と持続的開発 (草の根技術協力地域提案型)	5
III	調査結果	
III-1	現地調査概要	7
III-2	案件実施にあたり留意すべき事項	18
	別添	
1	ミニッツ	
2	事業提案書 (アマゾン自然学校プロジェクト)	



1 日系移民一世が植えた樹木が巨木に成長している（トメアス日系農園）



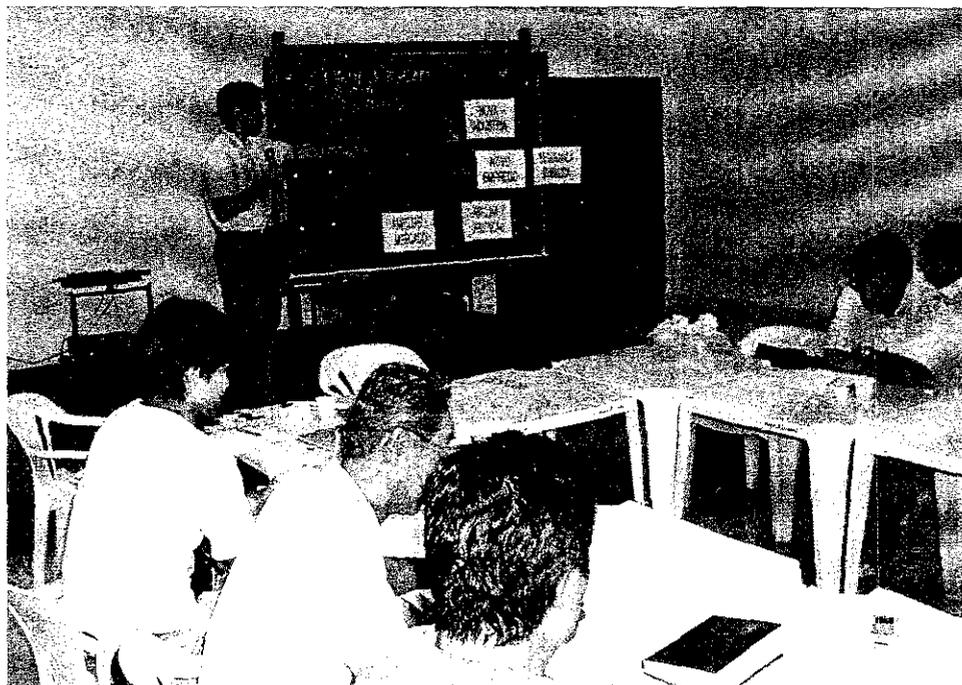
2 アグロフォレストリーにより生産されたクブアス、アサイ等の果物等を原料に製造された輸出用ジュースパック（トメアスジュース工場）



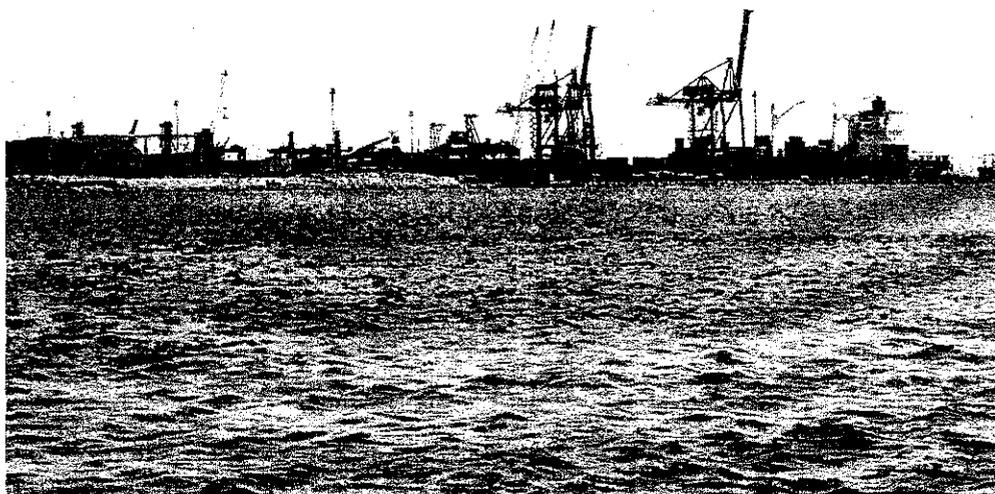
3 巨大アリ (トメアス日系農園)



4 コミュニティーリーダー研修コース開講式



5 プロジェクト説明会（トメアス文化協会）



6 パラナグァ港湾施設



7 マングローブ林 (パラナグァ湾)

I 調査概要

I-1 調査目的

平成 15 年度草の技術協力事業（支援型）として、特定非営利活動法人野生生物を調査研究する会から「アマゾン自然学校プロジェクト」が申請された。プロジェクト対象地域では、熱帯雨林の伐採が続いており、このままでは貴重な自然資源が枯渇することから、森林の重要性を伝えるための環境教育プロジェクトを実施してほしいとのトメアス文化協会の要望により立案されたものである。プロジェクトにおいては、現地を調査し、環境テキストを作成するとともに、プロジェクトサイトを整備し、インストラクターを育成、自然学校を開校し、トメアス文化協会がプロジェクトを自立運営できるよう支援するものである。事業提案書に基づき、現地状況並びに先方実施体制を確認し、幅広い事業実施に受けての体制を確立することが調査の第一の目的である。

また平成 15 年度草の技術協力事業（地域提案型）として、兵庫県から「パラ州沿岸海域の環境保全と持続的開発」が申請された。プロジェクト対象地域は、世界的にも有名な大自然が残されているパラナ沿岸域の一部で、開発による自然破壊が進みつつあり、そのために水産資源が減少し、漁業被害も生じ、貧困の原因（社会問題）にもなりつつある。よって、水産資源の持続的な利用ができる豊かな海づくりのためには、環境保全対策を計画的総合的に進めていくことが緊急の課題となっている。本事業提案書に基づき、現地状況並びに先方実施体制を確認し、幅広い事業実施に受けての体制を確立することが調査の第二の目的である。

I-2 調査項目

「アマゾン自然学校プロジェクト」(草の根協力支援型)

- 1) トメアス文化協会とプロジェクト実施体制等につき協議、確認し結果を踏まえ、ミニッツを締結する。
- 2) 自然学校(エコツアー)実施のためのリソース(プロジェクトサイト等)を調査し、プロジェクト実施にあたり、留意すべきことを提言する。

「パラナ州沿岸地域の環境保全と持続的開発」(草の根技術協力事業地域提案型)

- 1) ブラジル側実施体制の確認および案件の実施促進

I-3 メンバー

団長/総括 : 服部 一平 (JICA 兵庫国際センター)
技術指導 : 山田 祐彰 (東京農工大学)
連携普及計画 : 岡橋 実 (JICA 国内事業部)

I-4 日程

日順	月 日	時間	行 程	宿泊
1	7月30日 (水)	19:10	○成田発	機内
2	31日 (木)	10:00 22:55	サンパウロ経由 ○サンパウロ支所打ち合わせ ベレーン着	ベレーン
3	8月1日 (金)	8:30 16:00	○ベレーン支所にて打ち合わせ トメアス地区へ移動 ○トメアス文化協会と打ち合わせ	トメアス
4	2日(土)		支援型プロジェクトサイト視察	トメアス
5	3日(日)		支援型プロジェクトサイト視察	トメアス
6	4日(月)	11:00 15:30	○コミュニティーリーダー研修コ ース (POEMAR) 開校式視察 ○トメアス文化協会へ説明会	トメアス
7	5日(火)	10:00 午後 16:30	○ミニッツ署名 ベレーンへ移動 ○ベレーン支所報告	ベレーン
8	6日(水)	7:00 16:00 18:00	ベレーン発クリチバへ クリチバ着 ○兵庫県関係者との協議	クリチバ
9	7日(木)		地域提案型サイト視察	クリチバ
10	8日(金)	8:00 10:00 15:58 19:00	クリチバ発ブラジリアへ ○ブラジル事務所報告 ブラジリア発サンパウロへ ○サンパウロ支所報告	サンパウロ
11	9日(土)	23:55	資料整理 サンパウロから日本へ	機内泊
12	10日(日)		移動	機内泊
13	11日(月)	13:00	成田着	

II 調査結果要約

1 アマゾン自然学校プロジェクト（草の根技術協力支援型）

(1) ミニッツの締結について

本プロジェクト実施に向けてミニッツを締結した（別添参照）。内容について大幅な変更箇所はなく、下記のとおり若干の変更箇所が生じた。

- ① 現地カウンターパート機関であるトメアス文化協会が、事業実施団体と共同で事業を実施したい意向から、下記下線部分の文言に訂正した。

（ミニッツ 3 ページ目）

III. Measures to be taken by Tome-Açu Municipal Government and Tome-Açu Cultural Association

1. The authorities concerned of Tome-Açu Municipal Government, Tome-Açu Cultural Association and The Wild Life Research Society will cooperate together as partners for the successful implementation of the Project.

- ② 事業実施団体とトメアス文化協会が、本プロジェクトの対象者（ターゲットグループ）について協議した結果、小学生を中心としたほうが望ましいという結論に達したことから、下記のとおり文言を付加し強調した。

（ミニッツ 4 ページ目）

ANNEX (1). THE PROJECT OUTLINE

5. Target Group :

School children, Teachers, Agriculturists, Students, Citizens

(2) トメアス文化協会の協力内容の確認

事業実施団体からトメアス文化協会側へ具体的に要請した協力内容は、①プロジェクトサイトの調査、アマゾン自然学校開校後の農場及び森林の借用、②トメアス文化協会内での事務所確保、③現地調整員の選定、④車の借用、⑤アマゾン自然学校受講者の民宿確保である。

また、環境教育に係るテキストの作成、アマゾン自然学校現地講師の選定及び養成方法、アマゾン自然学校研修カリキュラムの作成等については、事業実施団体とトメアス文化協会との協議により今後、決定される。

(3) プロジェクト実施サイトの確認

プロジェクトを実施する予定サイトを2日間にわたって調査したが、いずれも日系人及び日系団体が所有する農場内の森林（時系列的に植生遷移の観察できるアグロフォレスト、二次林および原始林）がその候補地となっている。よって本プロジェクトは、日系農場を借用して実施する予定である。本調査では、時間の制約上5農場のみ調査したが、トメアス地区だけで200の農場が存在しており、多種多様な教材を含む自然学校が開校されるものと期待される。また、受講者の安全面を考慮すれば、農場内の森林を利用することは望ましく、農場主がアマゾン自然学校のインストラクターになり得るものと思われる。

他方、JICAが協力しているPOEMAR(持続的開発活動センター)のコミュニティーリーダー研修コース(1年間)に参加している若手小農の中からインストラクター候補を求めることも考えられる。

ただし、これらプロジェクトサイトを借用することについて、一部の農場主からは前向きな回答を得ることはできたが、プロジェクトを進めるにあたって、具体的にサイトを確定するまでは本調査では至っておらず、今後、事業実施団体と農場主の折衝によって決定される。

2 パラナ州沿岸地域の環境保全と持続的開発（草の根技術協力地域提案型）

(1) 相手国カウンターパート機関について

本プロジェクトのカウンターパート機関は、5機関（環境自由大学（NGO）、パラナ連邦大学（海洋研究所）、カトリック大学（水産研究所）、パラナ州環境局 IBAMA（連邦自然保護院・環境省））だが、そのいずれかを代表として事業実施に係る了承を取り付ける必要がある。当初、その団体のうちパラナ州環境局がその機関として適当であると思われたが、政府機関であるため政策の変更によりプロジェクトが延期及び中止される恐れがある。よって、プロジェクトの円滑な実施が期待される環境自由大学（NGO）をその機関として適当であると判断し、現地を視察の上、先方に打診したところ前向きな回答を得られたことから、今後、事業実施団体である兵庫県と協議の上、了承を取り付ける代表機関として検討することとしたい。なお、他の4機関のうち地方政府であるパラナ州環境局について、了承の取り付けに係るミニッツ（協定書）を締結する際、witnessとして署名することは特段問題がないものと思われるところ（中村前パラナ州環境局長官との協議による）から今後、同様に前向きに検討していくこととしたい。

(2) 現地調査について

本プロジェクトサイトであるパラナグア湾を船で調査したところ、湾岸の産業生活廃水が処理不十分のまま閉鎖性海域に流れ込んでいるため、浮遊物が多く、透明度の低いことが確認された。湾内にはマングローブが広汎に分布しており、湾奥部にエビやスズキが生息、またカキが養殖されており、漁民の生活を支えていることが確認された。

続いて本プロジェクトのカウンターパート候補となっているパラナ連邦大学の海洋研究所を訪問したところ、プロジェクトサイトのパラナグア湾口に位置し、海域の水質調査を実施する際に基地として適当な場所であることも確認できた。

(3) その他

本プロジェクトの了承の取り付けに係る代表機関として想定される環境自由大学 (NGO) の講座を確認したところ、エコツーリズムに係る講座が設けられていた。本講座を「アマゾン自然学校プロジェクト」(草の根技術協力事業 (支援型)) のインストラクター養成に活用することも期待できる。

Ⅲ 調査結果

Ⅲ-1 現地調査概要

○ 7月31日(木) 午前10:00～
「サンパウロ支所との打ち合わせ」

◎場所：サンパウロ支所

◎面会者：小松サンパウロ支所長
佐藤職員

◎打ち合わせ内容（ブラジルサンパウロ支所の見解）

(1) 「アマゾン自然学校プロジェクト」について

ア. アマゾン自然学校を開校するにあたり受講者のターゲットグループを絞り込む必要がある。例えば、小中学生は地元パラ州、大学生はパラナ州からと分別してターゲットグループを設定することを検討してはどうか。

イ. パラナ州民を、アマゾン自然学校へ招致できる体制を整備することが望まれるが、パラナ州からパラ州までの距離を考えると、その費用をパラナ州が捻出することは、困難であると思われる。

ウ. アマゾン自然学校を開校するにあたり、自然植物の研究機関であるパラ州のエミリオ・ゲルジ博物館を巻き込んで事業を実施することを検討してはどうか。

(2) 「ブラジル・パラナ州への環境協力事業・沿岸域の持続可能な開発に向けての環境保全事業計画」について

ア. 本プロジェクトは、カウンターパートが未だ具体的に決定していないため、パラナ州の前環境庁長官だった中村氏と協議し、決定する必要がある。

イ. 本プロジェクトで必要となる資機材の輸送については、ブラジル国政府を通じて了承の取り付けを行わないことから免税特権が付与されることはない。よって、ブラジル国内で必要な資機材を調達することを検討する必要がある。

○ 8月1日(金) 午前8時30分～
「ベレーン支所との打ち合わせ」

◎場所 ベレーン支所

◎面会者

「特定非営利活動法人 野生生物を調査研究する会」

副理事長 黒田 明彦

理事 増子 修一

プロジェクトマネージャー 林 建佑

ベレーン支所 森田職員、大西高級クラーク

◎打ち合わせ内容（アマゾン自然学校プロジェクトについて）

（1）調査内容、目的の確認

ア. プロジェクトサイトの確認及び調査

イ. 現地カウンターパート機関のトメアス文化協会との協議

ウ. トメアス郡政府との協議

エ. ミニッツの署名

（2）事業実施団体「野生生物を調査研究する会」の調査報告

（JICA 本調査団に先立ち、上記事業実施団体が、トメアス地区へ調査した際の報告及び確認事項）

ア. プロジェクトサイトは未定である。

イ. 平成 15 年度本事業での主な活動は、テキストを策定する予定である。

ウ. トメアス文化協会側は、本プロジェクトの実施に向けて前向きな姿勢であることを確認した。

エ. 本プロジェクトの内容について、トメアス文化協会に説明できる情報をより整理する必要があると認識した。

（3）ベレーン支所の見解

ア. 本プロジェクトは、トメアス文化協会がカウンターパートとなっているが、環境教育を行う上で同団体は、人材および実施体制が不足していると思われる。

イ. 本プロジェクトの主な活動である①環境教育のテキストの作成、②アマゾン自然学校のインストラクターの養成、③アマゾン自然学校のエコツアーの実施について、②のインストラクターの対象者が不確定である。また、③のアマゾン自然学校のエコツアーについて、参加者のターゲット設定も不明確であり、今後、検討する必要があると思われる。

ウ. 日本での環境保全の発展、推進の概念をトメアス地区にそのまま適用することができない経済状況であることを認識する必要がある。

エ. ミニッツについて、ポルトガル語に訳したものをトメアス文化協会に渡す予定だが、英文の文言と比較して変更した点は、「アマゾン

自然学校を開校する。」という表現を、「アマゾンで環境教育を行う。」に訂正した。他は変更なし。

- オ. 8月4日(月)に JICA 事業で実施する「アマゾン地域産業育成計画」の開校式がトメアス地区で実施される予定である。このプロジェクトの目的は、トメアス郡の農村地帯における荒廃地において、天然資源の持続的な管理手法を実践し、生産性を高めるための技術普及と農産加工技術を移転することを目的としている。ターゲットグループもブラジル人を対象としていることから、この中からアマゾン自然学校のインストラクター候補者となりうる者がいる可能性等、本プロジェクトとの効果的な連携が期待される。
- カ. トメアス郡政府に本プロジェクトの内容を説明したところ、本プロジェクトについての支援は、得られるとの感触を得た。
- キ. 「アマゾン自然学校」のインストラクターについては、日系農家だけでなく、小農も対象とすることを考慮すべきである。
- ク. 本プロジェクトの自立発展性を考慮すると、ベレーン近郊のアマゾン群馬の森を通じて、エミリオゲルジ博物館等との連携を図ることが望まれる。

(4) 山田調査団員の見解

- ア. アマゾン自然学校の発展性を考慮すると、ポルトガル語のほかに英語および日本語での中核インストラクター教育が望ましい。
- イ. エコツーリズムのターゲットグループを例えば、ベレーン市内の小学生等に設定する場合、参加費用について検討が必要である。
- ウ. 将来の自立発展性を担保するため、民間旅行会社と提携したエコツーリズムを考えてはどうか。

○8月1日(金) 午後4時～
「トメアス文化協会との打ち合わせ」について

◎場所 トメアス地区

◎ 面会者

トメアス文化協会会長 穎川 幸雄

同 理事 五島 洋一

同 財務理事 大貫 光春

同行者 特定非営利活動法人「野生生物を調査研究する会」 林 建佑

JICA 側 調査団 服部 一平

山田 祐彰

大西 康宏
岡橋 実

◎ 打ち合わせ内容

(1) トメアス文化協会 穎川会長の見解

ア. 本事業について基本的に支援する意向だが、当協会が分担する具体的な業務内容等説明を受けた後、理事会で協議し対応を決めたい。

→本打ち合わせで、8月4日(月)13:00~15:00にトメアス文化協会の役員、会員を対象に本事業の説明会を開催することを決定。

イ. 本協会の役員は、各自農業経営のかたわら役割分担して協会運営に携わっているため、業務が山積している。よって、役員が優先的に本事業に時間を割くには困難が伴うことを了解してほしい。

ウ. したがって本事業を継続実施するには、協会役員のボランティアベースに依拠するより、一定の報酬を受ける専従を置くことが望ましいと考える。

オ. 協会として本事業の担当理事を指名したいが、日本人移住者1世よりも、日系2世が中心となって支援していく体制が望ましいと考える。

(2) 山田調査団員の見解

本事業をとおして、①トメアス地区の農業発展、②農業文化の継承、③トメアス地区の広報の推進が期待される。日系移住地の活性化につながることは言うまでもないが、アマゾンの持続的開発を望む多くの人々がトメアスの経験から学ぶ絶好の機会となる。

○ 8月2日(土) 午前8時~
「プロジェクトサイト視察」

トメアスの「柴田、大西、笹原」農場、農業協同組合ジュース工場および文化協会共有林・苗畑の視察

○ 8月3日(日) 午前9時~
「プロジェクトサイト視察」

トメアスの「押切、坂口」農場の視察

(プロジェクトサイト候補地を視察しての所感)

上記農場は、事業実施にあたり良好なサイトであると思われる。これら農場(50~300ヘクタール規模)に含まれるアグロフォレスト、二次林および原生林を対象とした「アマゾン自然学校」であれば、アマゾン地域に分布する動植物を多数観察できるうえ、農場は整備されており、受講者にとって危険性は少ないというメリットがある。また、事業効果として、トメアス地区の農業の発

展、広報の推進、地域農民の生活向上が期待される。アマゾンのエコツーリズムと言えば原生林や原始林の自然を対象とするイメージがあるが、トメアスでは人間が自然に働きかけて出来た森林（二次林やアグロフォレスト）の遷移が時系列的に観察でき、持続的開発とは何かを考えさせる材料が豊富な点、他に類例なくユニークであると思われる。

○8月4日（月）午後3時30分～6時
「本事業のトメアス文化協会への説明会」

◎ 会場

トメアス文化協会内会議室

◎ 出席者

氏名 name	所属先 your organization	職位 position
穎川 幸雄	トメアス文化協会	会長
大貫 光春	トメアス文化協会	理事
南部 隆	トメアス文化協会	理事
五島 洋一	トメアス文化協会	理事
海谷 英雄	アマゾニア森林文化研究会	専務理事
フランシスコ・ワタル・坂口	CAMTA	事業所長
ミチノリ・コナガノ	CAMTA	役員
ジェルソン・高松	CAMTA	農業技師
坂口 陸	農場主	
高松 寿彦	農場主	

笹原 富雄	農場主	
シルビオ・柴田	農場主	

○日時 time and date 平成 15 年 8 月 4 日 (月) 15:30~18:00

○場所 place トメアス文化協会内会議室

◎内容 (アマゾン自然学校プロジェクトについて)

(1) 当方からの説明事項 (林プロジェクトマネージャーからの説明)

- ア. アマゾン自然学校は建物を建設するプロジェクトではなく、アマゾン地区の自然環境保全の必要性をブラジルの小学生等を中心に教育を行うことを目的とする。
- イ. プロジェクト実施において環境教育のためのテキストを作成するが、ターゲットグループが小学生等であることから、簡易で初学者向けの本を作成する。
- ウ. アマゾン自然学校を開校するに先立ち、インストラクターを養成する。
- オ. 本プロジェクトを通じて、トメアス地区以外から人が訪問することにより地元の産業が発展し、雇用を創出し、失業率を低下させるという経済効果がある。

(2) 当方からの要望事項 (林プロジェクトマネージャー説明)

- ア. トメアス文化協会及びその会員が所有している農場及び森林を借用し、調査、訪問すること。
- イ. トメアス文化協会の一部の区画を間借りし、本プロジェクトの事務所を設けること。
- ウ. トメアス文化協会が所有する車を借用すること。
- エ. トメアス文化協会の会員の家を民宿として借用すること。

(3) トメアス文化協会からの質問事項

- ア. 本プロジェクトについて、トメアス文化協会はパートナーか、協力するだけか、役割を詳細に説明願いたい。

(林プロジェクトマネージャー回答)

本プロジェクトは当方で実施していくが、現場の協力がなくては実施できないので、トメアス文化協会から協力を仰ぎたい。

(トメアス文化協会回答)

本プロジェクトを実施するにあたって、トメアス文化協会としてはパートナーとして共同で事業を実施していきたい。ただ場所、車、人等を提供するだけでは、賛同し難いものがある。これまでの JICA のプロジェクトは、調査しただけで終了するものもあった。

(山田調査団員回答)

ミニッツでは、トメアス文化協会が、事業実施にあたり実施すべき事項が規定されている。これは、定型化されたものであることから、文言の変更は必要最小限のものとなる。また、ミニッツに署名しないことには、本プロジェクトを実施できないことになっている。よって、ミニッツ締結後、事業実施団体である野生生物を調査研究する会とトメアス文化協会との両団体で、事業を実施する際の具体的な協力体制及びその内容等を協議しながら、プロジェクトを進めて行くことが望ましい。

(JICA 側・兵庫国際センター服部課長代理)

本プロジェクトは、ミニッツ締結後、3 年間 1000 万円を上限として実施されるものである。ミニッツ締結後、事業実施団体である野生生物を調査研究する会と JICA 側で本プロジェクト実施に係る業務委託契約を締結した後、事業を実施することとなる。

(トメアス文化協会回答)

「野生生物を調査研究する会」と「トメアス文化協会」がパートナーとして事業を実施することになるので、本件実施の前提となるミニッツ締結について了解。

(4) 事業の具体的な内容について（野生生物を調査研究する会とトメアス文化協会との協議内容）

ア. (林プロジェクトマネージャーからの説明)

2004 年 3 月に環境教育に係るテキストを作成し、インストラクターを養成する。また、環境教育におけるテキストの内容について、当方で考えているのは下記のとおり。また、環境教育のテキストで掲載する予定の昆虫、植物等の調査についてはブラジルの研究機関等に依頼する予定である。

(テキストの内容)

- 1) 保全の意義
- 2) アマゾン・トメアス地区の自然
植生、動物、遷移
- 3) アマゾン・トメアス地区の農牧、及び林業
- 4) 人と自然との関わり

アグロフォレストリー、農産物利用、植物の植え方

5) トメアス地区の動植物

(山田調査団員)

本プロジェクトのターゲットグループは誰か

(林プロジェクトマネージャー)

小学生を対象としたいと考える。

(トメアス文化協会)

ア. 小学生を対象としたプロジェクトであれば、漫画を活用した簡単なテキストを作成したほうが望ましい。ブラジル奥地の教育レベルは日本より低く、授業の回数も少ないことから簡潔かつ分かりやすいものが望ましい。また、本テキストには、トメアス地区の歴史の記述をお願いしたい。

イ. 森林破壊の元凶として製材業者や牧場主等を挑発するような文言は避け、むしろ少しでも彼らにも興味を持ってもらえるような内容にしたい。例えば「持続的開発のための教育」といったテキストタイトルが望ましいと思う。

(林プロジェクトマネージャー)

本プロジェクトのインストラクターについては、2～3年で10名程を養成することを目的とする。人選についてはトメアス文化協会と連携して例えば1世の方をお願いしたいと考えている。

(トメアス文化協会)

日系人のインストラクターを養成することは問題ないと思うが、地元ブラジル人を養成することは困難ではないか。

(上記やりとりを踏まえミニッツの締結は8月5日(火)、今後の具体的なプロジェクト内容については、野生生物を調査研究する会とトメアス文化協会とで協議決定することとして、会議を終了した。)

○8月5日(火)午後4時30分～
「ベレーン支所にて報告」

◎ 場所

ベレーン支所

◎ 面会者

ベレーン支所 森田職員

◎ 内容

(1) アマゾン自然学校プロジェクトにおいてミニッツを締結した経緯等に

についての説明。

◎ ベレーン支所からの質問

(1) アマゾン自然学校プロジェクトは、トメアス文化協会が主体となって事業実施団体と連携して事業を実施できる体制にあるのか。

(回答) ミニッツに記されているように事業実施団体とトメアス文化協会が連携して事業を実施していくことで合意に至った。

(2) ターゲットグループが小学生中心となった経緯は？

(回答) 環境教育における地域への波及効果を考慮すると、小学生を対象とすることが望ましいことで、事業実施団体とトメアス文化協会が協議の末、結論に達したのでターゲットグループを設定した。

(3) インストラクターは日系人のみが対象となるのか。

(回答) プロジェクト実施の初期段階においては、プロジェクトサイトの農場主であるトメアス文化協会の会員である日系人をおもな対象とするが、将来的には、地元の小農（非日系人）を対象としてインストラクターを養成することを目的とする。

(4) 今後の本プロジェクトにおけるスケジュールはどうなるのか。

(回答) 本調査でブラジル国のカウンターパート機関と事業実施に係る了承の取り付けは終了したので、8月中に事業実施団体と兵庫国際センターで本プロジェクトの業務委託契約を締結し、プロジェクトを実施していくこととなる。

(5) インベントリー調査はどのように行うのか。

(回答) 本事業の予算内で、近郊都市ベレーンにあるエミリオゲルジ博物館等研究機関に依頼する予定であるが、必要経費が高額になるのではないかと危惧している。

(6) トメアス文化協会の会員は、日系人が中心となっているが本プロジェクトに

においてトメアス地区の非日系との連携は可能か。

(回答) トメアス文化協会の役員も地元（トメアス地区）に根付いた二、三世が中心となっており、彼らに本プロジェクトの実施において非日系である小農との連携が必要だという意識があれば、非日系との連携も可能であると思われる。

○8月6日（水）～8月7日（木）

草の根技術協力事業（地域提案型）「ブラジル・パラナ州への環境協力事業・沿岸域の持続可能な開発に向けての環境保全事業計画」について現地調査

◎ 場所

クリチバ

◎ 面会者

中村兵庫県ブラジル事務所長（前パラナ州環境局長官）

◎ 内容

- (1) 本プロジェクト実施に係るカウンターパー機関についての協議
- (2) プロジェクト現場（パラナグア湾）の調査他

○8月8日（金）

今回の調査内容をブラジル事務所及びサンパウロ支所へ報告

◎ 場所

ブラジル事務所及びサンパウロ支所

◎ 面会者

外務省ブラジル日本大使館 田雑 隆昌

ブラジル事務所長 松谷 広志

職員 大塚 耕智

サンパウロ支所長 小松 電玄

次長 石橋 隆介

職員 佐藤 洋史

◎ 内容

今回の調査内容を報告した後、下記のとおりブラジル事務所及びサンパウロ支所から質問があった。

- (1) 草の根技術協力事業（支援型）「アマゾン自然学校プロジェクト」について

ア. 本プロジェクトが終了した後の地元への裨益効果及び発展性はあるのか。

（回答）トメアス地区を対象としたエコツアーがすでに近郊都市ベレーンの日系旅行会社により実施されており、それら旅行会社と連携することによりプロジェクト終了後の自立発展性、裨益効果はあるものと思われる。また、トメアス文化協会内においても日系二、三世が主導的に協会の運営を行っており、トメアス地区農業組合と共同して事業を実施す

る姿勢を示していることから期待できる。

イ. トメアス地区から日本への研修について、その効果があるのか疑問である。

(回答) クリチバの環境自由大学 (NGO) のエコツーリズムに係る講座を受講させてはどうか。

ウ. 本プロジェクトに係る具体的な活動内容について不明であり、もう少し詳細につめる必要があるのではないか。

(回答) 今回の調査後、兵庫国際センターと業務実施団体とで事業実施に係る業務委託契約を締結することとなる。その際、より具体的なプロジェクトの活動内容を事業実施団体と協議の上、決定することとなる。本プロジェクトは、事業実施団体の活動内容を JICA が支援することが趣旨であることから、契約締結後も、その活動内容について支援することとしたい。

(2) 草の根技術協力事業 (地域提案型) 「ブラジル・パラナ州への環境協力事業・沿岸域の持続可能な開発に向けての環境保全事業計画」について当方よりブラジル事務所へ下記のとおり質問した。

本プロジェクトの事業実施団体は、(財)ひょうご環境創造協会、(財)国際エメックスセンターなどの兵庫県の外郭団体となるが、ブラジルの受託団体は NGO である「環境自由大学」でプロジェクトを進めていくことでよいか。したがって、ミニッツの締結においては相手国受入機関は「環境自由大学」となり、witness となる政府機関はパラナ州環境局でよいか。

(回答) 問題なしと思われる。

Ⅲ-2 案件実施にあたり留意すべき事項

パラ州トメアスー郡をモデル地域として、アマゾンの森林と持続的開発に関する認識の普及を目標とする事業においては、実施の際に、以下のことがらに留意すべきであると考えらる。

1. 地元のより多くの人々の参画を得る

トメアスー文化協会側から、プロジェクト名称中の「環境教育」は「持続的開発への合意形成」と改めるよう提議があった。しばしば森林破壊の推進者として批判される地元の製材業者、牧畜業者、商業者等も排除せず、事業に関心を持って参加してもらうためである。「先進諸国から押し付けられた」環境問題に対する地元の複雑な感情にも配慮し、事業の効果を高めるため、本提案の尊重されることが望ましい。

2. 郡内小学生への教育普及から着手する

小学校低学年程度の教養があれば理解できる 20 頁ほどの漫画冊子で、森の大切さと、森の恵みを持続的に活用すべきことを絵解きする。これを副教材として、郡内全小学校の児童に配布し授業で取り上げてもらう。トメアスー文化協会の 2 世理事によれば、地元住民は、余所者から環境問題についてお説教されるより、学校で習ったことを子供から聞かされる方が、高い教育効果が期待できるという。

3. 「アマゾンの自然・持続的開発教育」インストラクターの養成

野外教育プログラムの開催に向け、郡内の教員や農業者、本年開講した POEMAR (持続的開発活動センター) コミュニティーリーダー研修コースの受講生から選ばれた候補者に、インストラクター教育を行う。世代、社会階層、文化的多様性に配慮した人選をする。事業 2 年度からは、前年までに研修を受けたインストラクターが、養成コースの運営に参画する。

4. 日系農場を活用する

このことにより、日本人アマゾン移住 75 年の成果で、世界的に注目されている遷移型アグロフォレストリーを、農場内にあり年齢のわかる二次林の遷移と組み合わせて教育活動に用いることが出来る。入植地内には、原始林も残存している。また、牧草地や小河川、池、湿地も存在する。活動の安全や各種ロジスティクスの便宜をはかる上でも、日系農場とその連合組織である文化協会および農業協同組合の協力は心強い。具体的な場所の

選定にあたっては、トメアスー文化協会の2002年版作付台帳をもとに現地視察、農場主と協議の上、文化協会を通して使用条件に関する契約を行う。

パラナ州沿岸の閉鎖性海域において水環境技術協力を実施する場合、以下諸点に留意することが望ましいと考える。

1. 海域内の生態系を把握する

問題となる2つの湾において、植生、動物、人間活動について、生態学的および社会経済的調査を行い、各要素の相互関連を明らかにする。南米大陸のマングローブ南限地帯における、保護すべき貴重な自然と、その人為的干渉に対する復元力の評価が必要であろう。また、主な水質汚染源を特定し、過去の関連事業による改善状況と、残された課題について検討すべきである。

2. カウンターパートと事業対象の選定

プロジェクトの円滑な実施と自立発展性を担保するため、活動実績のある地元 NGO と提携し、そこを窓口として、地方政府や研究普及機関と連携することが望まれる。海域内には自然保護区も含まれるが、事業の主たる対象は、持続的な水産資源利用や養殖にとりくむ地元中小漁民におくべきであろう。赤潮発生が報告され始める一方で、魚介類養殖は萌芽的段階にあり、瀬戸内海における兵庫県の長年にわたる経験蓄積を国際協力に活かすには、絶好の舞台と考えられる。

別 添

- 1 ミニッツ
- 2 事業提案書（アマゾン自然学校プロジェクト）

平成15年6月2日

事業提案書

1. 提案事業の概要と応募団体の概要

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	ブラジル連邦共和国
2. 提案事業名	「アマゾン自然学校」プロジェクト
3. 事業の背景と必要性・妥当性	
(1) 背景、現状、問題点	
<p>1992年、ブラジル国リオデジャネイロ市で開催された「地球環境開発会議」より10年、熱帯雨林はなおも減少の一途をたどっている。熱帯雨林が存在することは地球温暖化の抑制や生物多様性の保存にとって非常に重要なことである。プロジェクト予定地のトメアスでは、30年前は原生状態だった森林がほとんどなくなったことにより、雨量は減少し、気温も上昇している。原生状態だった森が激しく失われたのは木材業者の無秩序な開発が大きな要因である。地域の人々は森の持つ様々な機能やその回復の困難を知らないために、持続可能な発展という発想を持たず、木材業者によって将来の資源を奪われている。今なお、木材業者等による伐採は続いており、また、土地なし農民による不法伐採も続いていることから、このままでは森林の持つ様々な機能、未来の資源が失われてしまうとの危機感から、森林の重要性を教えて欲しいとの要望がトメアス文化協会から野生生物を調査研究する会に対して出された。</p>	
(2) 事業の必要性・妥当性	
<p>熱帯雨林が存在する地域において、そこに住む人々が身近な熱帯雨林が重要であることを認識し、人と自然が共生していくことが「持続可能な発展」を目指すうえで有益であるということを知ってもらう。現地の人々は森林の持つ多様な働きや価値を知らず、豊富にある森がなくなることにより何が生じるかを知らない。また、森が簡単に回復するものと思っている。しかし、原生状態の森はたとえ熱帯であっても簡単には取り戻せない。今までは豊富な資源を使うことを考えればよかったが、これからは「持続可能な発展」の発想を抜きにしては真の発展は非常に困難である。熱帯雨林の多様な価値や重要性を環境教育を行うことによって理解してもらい、地域全体で現地の人々が地元の熱帯林を守っていきけるようなシステムを地元の人と協同で作りに上げる。</p>	
<p>野生生物を調査研究する会（以後、当会）は日本国内で「人・暮らし・自然」の協調をテーマに兵庫県下の三河川（武庫川、猪名川、揖保川）について調査を行い、「生きている川シリーズ」として本を作成し、各流域の小中学校に寄贈するとともに、小中学校の先生を対象としてセミナーを開催し、一般の人を</p>	

対象とした自然観察会を行っている。これらの経験をいかし、トメアスにおいて、トメアス文化協会とともに、河畔林の調査を行い、現地に即したテキストを作成し、自然学校という形で環境教育を行う。そして、テキストを活用し、森林インストラクターを養成することで、自らの手で自然学校を開催し、継続して環境教育を実施できるようにする。

自然学校とは、特に自然に親しむ事が少なくなった都市部の子供達が自然の豊富な所で自然に親しむきっかけを作るものである。都市部ではテキストで学ぶことや学校で聞く話を実体験する場は非常に少ない。教室の中での授業、実体験の伴わない知識では実感がわかず、日常の生活と環境問題がどのように結びつくのかがわかりにくい。実体験を伴った知識こそが行動に結びつきやすい。また、都市部の子供と森林周辺に住む子供達の交流は子供達にとって大きな刺激となる。ブラジル国内では南部と北部の格差が大きく、両地域の交流も同様に大きな刺激となるはずである。そして、アマゾン自然学校の参加者が他地域との交流やプログラムを通じて自らの目で見て肌で感じたことから、自分達の国で何が問題であるかを自分自身で考え、それを解決するための行動力を養うことを目的とする。また、インストラクターは効果的な環境教育の手法を身につけることで、アマゾンの現状や重要性等をより広く伝えていける力を養うことを目的とする。

4. 事業の目標（事業終了時の達成目標）と達成をはかる指標

上位目標：現地の人が森林の多様な価値や重要性を理解する。持続可能な発展に向けて、森と人との共生、熱帯林保全に対する意識を高める。

プロジェクト目標：現地の人が自分達の手で自然学校を開催し、環境教育を推進し進める。

指標：①環境教育テキストが作成される

トメアスの森での調査に基づき、「トメアスの自然、リサイクル（廃物利用）、植林による自然回復（モデル実験林）、熱帯作物農場（アグロフォレストリー）、林産物の利用（薬用植物等）」のような項目でテキストを作成。50 ページ、1000 冊。

②3 年間で 10 名の森林インストラクターが養成される

2 年目に 1 期生が 5 名、3 年目に 1 期生指導の下 2 期生が 5 名、計 10 名のインストラクターが養成される。なお、5 名の内訳は分野別（農業、植林、植物、動物、リサイクル）である。

③アマゾンエコツアーが開催される（年 2～3 回）

インストラクターがガイドを行う自然学校の縮小版で見学が中心となり、対象が子供に限らない。各回 10 名程度が対象。公募によって参加者を集める。

④アマゾン自然学校が開催される

1 回目はベレンを対象とし、エッセイコンテストにより 10 名を選出。

2 回目は南部地域（兵庫県とパラナ州の姉妹提携により地域を選定する予定。兵庫県国際交流課と相談中。）を対象とし、10 名募集。
計 2 回 20 名の子供が参加。

⑤アマゾン自然学校報告会を行う

アマゾン自然学校の参加者を集め、報告会を開催する。

⑥養成された森林インストラクターによる自然学校が開催される。（3 年次）

⑦アマゾン自然学校基金が設立される。

5. 事業の内容

(1) 実施期間

2003 年 10 月 より 3 年間で予定

(2) 対象地域（活動地域）

ブラジル国パラ州トメアス郡

(3) 対象者（受益者）

ベレン市を中心とする地域の学校教職員、農林業従事者、学生、一般市民。（公募によりインストラクター候補者を募集する。）パラナ州（兵庫県の姉妹県）の学校教職員、学生（エッセイコンテストの入賞者）

(4) 成果（短期的目標）、達成をはかる指標、成果を達成するための活動

①成果：環境教育テキストが完成される。

指標：50 ページ、1000 冊程度

活動：・河畔林において動植物の生態調査を行う。

・ アグロフォレストリー、林産物の調査を行う。

・ テキストを作成・編集を行う。

・ テキストの翻訳・編集を行う。

・ テキストの配布を行う。

②成果：森林インストラクターが養成される。

指標：2 年後に第 1 期生 5 名がインストラクターとなる。3 年後、第 1 期生指導の下、第 2 期生 5 名がインストラクターとなる。

活動：・熱帯雨林の特徴などについての講演会を行う。

・講演会・交流会を通してインストラクター候補者を募集する。

・インストラクター養成講座を実施する。（内容は作成したテキストに準ずる）

③成果：エコツアー、自然学校開催のための圃場が整備される。

・植林の準備・管理を行う。（苗作り、場所選び、調査・管理）

④成果：エコツアーが開催される。

活動：・参加者募集

・エコツアープログラムの作成

・森林インストラクターによるガイド

⑤成果：アマゾン自然学校が開催される。

活動：・参加者募集準備を行う。

- ・エッセイコンテストを実施する。
- ・アマゾン自然学校プログラムを作成する。
- ・アマゾン自然学校実施準備を行う。
- ・アマゾン自然学校プログラムを実施する。
- ・アマゾン自然学校参加者による報告会を行う。

⑥成果：育成された森林インストラクターによる自然学校が開催される。

(3年次以降継続開催)

活動：・アマゾン自然学校1ドルファンドを設立する。

- ・HP開設、広く情報公開を行い基金への協力を募る。
- ・アマゾン自然学校参加者に対して追跡調査を行う。
- ・自然学校を継続開催するための現地組織を設立する。

(5) 投入 (人材、資機材、施設等)

〈日本実施側〉

人材

プロジェクトマネージャー	1名×3年
国内調整員	2名×3年
調査人員	5名×1年
講師	1名×3ヶ月

資機材

パソコン	一式
調査機材	一式

施設

野生生物を調査研究する会事務所

〈相手国実施機関〉

人材

現地調整員	1名×3年
-------	-------

資機材

事務器具 (机、電話等)	一式
車	一台

施設

トメアス文化協会所有河畔林 (調査林・自然観察林)

トメアス文化協会事務所 (講演場所、現地側事務所)

6. 事業の実施体制	<p>日本側（日本側支援体制、広報等）</p> <p>国外での業務を当事業に計上している。国内における資金は当会の自己資金で負担する。</p> <p>広報に関しては、当会のホームページで事業内容を公開するほか、年度末の総会において、主に当会会員へ当事業の報告を行う。また、パラナ州と姉妹県である兵庫県にも当事業の報告を行う。</p> <p>相手国実施機関においても、会員へ当事業の報告を行うとともに、ペレン市の NGO と情報交換を行う。</p> <p>相手国側（相手国実施機関の概要等）</p> <p>トメアス文化協会はパラ州トメアス郡にある日系の文化協会であり、その業務内容として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日伯交流事業 2. 文化・体育・芸能事業 3. 農業土木用重機・車輛運用事業 4. 育苗事業 5. 堆肥製造事業 6. 営農普及および森林経営・植林促進事業 <p>があげられる。</p> <p>現地に約 1,600ha の河畔林を所持しており、一昨年より当会との交流が始まった。トメアス式アグロフォレストリーの名で海外研究者や有識者から好意的評価を得ている。</p> <p>原生林を含むこの所有地の有効利用と保全の両立を希望、同時に 92 年には盛り上がりを見せていた環境に対する興味が世代交代と共に薄れつつある現在、改めて住民参加と熱帯林保全の意識を高めたい。</p> <p>所在地・・・Av. Dionisio Bentes, Quatro-Bocas, Tome-Acu, Para, Brazil(C/P2314) CEP68682-000</p>
7. 事業開始にあたっての前提条件	トメアス文化協会がプロジェクト実施に協力する。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	非特定営利活動法人 野生生物を調査研究する会
2. 活動内容	兵庫県をメインのフィールドとし、野生生物の調査・研究を行う。「人とくらしと自然」をテーマに河川流域の生態系を

	調査し、本を作成して、流域の小中学校に配布した。また、里山の保全活動や小中学校の教員を対象にした環境教育セミナーである「黒川セミナー」、一般の方々を対象とした自然観察会「ナチュラルリストクラブ」の講師を行う。会の中だけに調査結果をとどめるのではなく、ホームページを通して、情報発信を積極的に行って、一般に対して還元している。
3. 対象国との関係、協力実績	2001年より、パラ州ベレン市ベルオペーゾ市場を中心に、特用林産物の利用について調査。 トメアス文化協会と交流・情報交換を行う。 「生きている揖保川」をトメアス文化協会、群馬の森（北伯群馬県人会）、ベレン日伯協会に贈呈。
4. 所在地	〒651-1322 兵庫県神戸市北区東有野台4丁目15-10 今西方 Tel:078-981-2821 Fax:078-981-2821 Email:wrs@wildlife.or.jp
5. 連絡先	<上記と異なる場合> 〒663-8228 兵庫県西宮市今津二葉町2-20-802 担当者氏名：林 建佑 Tel:0798-34-7977 Fax:0798-34-7977 Email:hayashikensuke@aol.com
6. プロジェクトマネージャー	林建佑
7. 団体の設立主旨、目的、方針等*	

*定款、設立趣意書が添付されていない場合にご記入下さい。添付された書類に記載があれば、不要です。

THE MINUTES OF MEETING
BETWEEN
THE JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY
AND
TOME-AÇU MUNICIPAL GOVERNMENT
ON
JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
UNDER
THE JICA PARTNERSHIP PROGRAM
FOR
AMAZON ECO-SCHOOL PROJECT

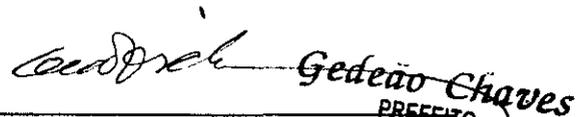
The Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") exchanged views and had a series of discussions through the JICA Brazil Office with Tome-Açu Municipal Government for the purpose of working out the details of activities and measures to be taken by JICA and Tome-Açu Municipal Government concerning The Amazon Eco-School Project (hereinafter referred to as the "Project"), which will be implemented in collaboration with The Wild Life Research Society under the JICA Partnership Program.

As a result of the discussions, both sides agreed to implement the Project based on the conditions referred to in the document attached hereto.

Tome-Açu, 5th August, 2003

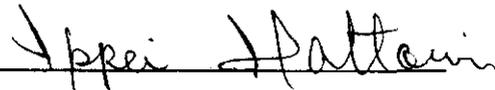


HIROSHI MATSUTANI
Coordinator for Technical Cooperation of
Japan in Brazil



GEDEÃO DIAS CHAVES
Mayer
Tome-Açu Municipal Government

PREFEITO
CPF. 058.295.501-72

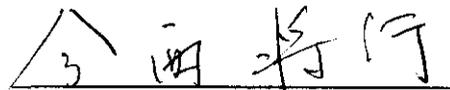


IPPEI HATTORI
Leader

Preparatory Study Team
Japan International Cooperation Agency



YUKIO EIKAWA
President
Tome-Açu Cultural Association



MASAYUKI IMANISHI
President
Wild Life Research Society

ATTACHED DOCUMENT

I. Implementation of the Project

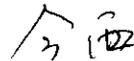
1. JICA, the executing agency for technical cooperation of the Government of Japan, will implement the Project under the JICA Partnership Program in collaboration with The Wild Life Research Society, a Japanese Non-Profit Organization.
2. The Project will be implemented in accordance with the Project Outline, which is given in Annex (I).

II. Measures to be taken by JICA

1. To implement the Project efficiently and effectively, JICA will supervise the overall implementation of the Project. Based on a contract to be signed by JICA and The Wild Life Research Society, JICA will entrust the actual implementation of the Project to The Wild Life Research Society.
2. JICA will bear only those expenses it considers necessary for the implementation of the Project.
3. JICA will maintain ownership of the equipment or facility to be procured through its funding for the implementation of the Project in accordance with the Project Outline, which is given in Annex (I) throughout the Project implementation period.



Gedeão Chaves
PREFEITO
CPF. 058.295.501-72

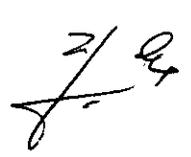
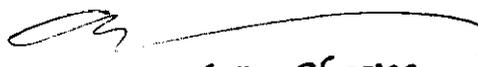
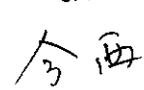


III. Measures to be taken by Tome-Açu Municipal Government and Tome-Açu Cultural Association

1. The authorities concerned of Tome-Açu Municipal Government, Tome-Açu Cultural Association and The Wild Life Research Society will cooperate together as partners for the successful implementation of the Project.
2. The authorities concerned of Tome-Açu Municipal Government and Tome-Açu Cultural Association will provide The Wild Life Research Society and JICA with necessary information such as data, map and documents that will allow efficient and effective implementation of the Project.
3. The authorities concerned of Tome-Açu Municipal Government and Tome-Açu Cultural Association will provide The Wild Life Research Society and JICA with necessary information about details on security conditions.
4. As for the equipment or facility mentioned in II. 3., when the equipment or facility is deemed necessary for the sustainable and effective continuation of the activity by Tome-Açu Municipal Government and Tome-Açu Cultural Association, ownership of the equipment or facility after completion of the Project will be considered and determined through consultation among the parties concerned before the completion of the Project.
5. The Wild Life Research Society and Tome-Açu Municipal Government and Tome-Açu Cultural Association will bear responsibility for the maintenance of the equipment or facility.

IV. Mutual Consultations

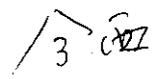
Any major issues that may arise from or in connection with this attached document shall be resolved through mutual consultations by all parties concerned.

   
Gedeão Chaves
PREFEITO
CPF. 058.295.501-72


ANNEX (I). THE PROJECT OUTLINE

1. Country : Brazil
2. Title of the Project : Amazon Eco-School Project
3. Project Purpose:
To Promote environmental education by establishing
“ Amazon Eco-School (Eco-tour) ” in order to achieve sustainable development
especially in the Amazon area.
4. Target Area : Tome-Açu , Para State, Brasil
5. Target Group :
School children, Teachers, Agriculturists, Students, Citizens
6. Project Activities :
 1. Making a textbook for environmental education by researching eco-system of the project area.
 2. Training instructors for the environmental education(Amazon Eco-School)
 3. Starting environmental education (Eco-Tour) by trained instructors.
7. Project Term : from August, 2003 to August,2006
8. Implementing Organization : The Wild Life Research Society

Gedeão Chaves
PREFEITO
CPF. 058.295.501-72


ATA DA REUNIÃO
ENTRE A AGÊNCIA DE COOPERAÇÃO INTERNACIONAL DO JAPÃO
E A PREFEITURA MUNICIPAL DE TOME-AÇU SOBRE
A COOPERAÇÃO TÉCNICA JAPONESA DO
PROGRAMA DE PARCERIA DA JICA PARA
O PROJETO DE EDUCAÇÃO AMBIENTAL
DA AMAZÔNIA

A Agência de Cooperação Internacional do Japão (doravante citado como "JICA") trocou idéias e realizou séries de discussões através do Escritório Anexo da Embaixada do Japão - JICA Brazil Office com a Prefeitura Municipal de Tome-Açu, com o propósito de estabelecer detalhes das atividades e medidas que serão tomadas pela JICA e a Prefeitura Municipal de Tome-Açu com relação ao "Projeto de Educação Ambiental da Amazônia" (doravante citado como "Projeto"), que será implementado em colaboração com o Wild Life Research Society(WLRS) do Programa de Parceria da JICA.

Como resultado das discussões, as duas partes concordaram com a implementação do projeto, baseada nas condições indicadas no documento anexado.

Tome-Açu, 5 de Agosto, 2003.



HIROSHI MATSUTANI
Coordenador de Cooperação Técnica
do Japão no Brasil



Gedeão Chaves
PREFEITO
CPF. 058.295.501-72

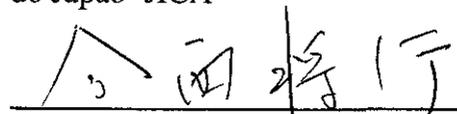
GEDEÃO DIAS CHAVES
Prefeito Municipal
Prefeitura Municipal de Tome-Açu



IPPEI HATTORI
Chefe da Missão de Estudos Preparatórios
Agência de Cooperação Internacional
do Japão- JICA



YUKIO EIKAWA
Presidente
Associação Cultural de Tome-Açu



MASAYUKI IMANISHI
Presidente
Wild Life Research Society

DOCUMENTO EM ANEXO

I. Implementação do Projeto

1. JICA, a agência executora de cooperação técnica do Governo do Japão, irá implementar o Projeto sob o Programa de Parceria da JICA em colaboração com o Wild Life Research Society (doravante citado com "WLRS").
2. O Projeto será implementado de acordo com as Linhas Gerais do Projeto em anexo.

II. Medidas a serem tomadas pela JICA

1. Para implementar o Projeto de forma eficiente e efetiva, a JICA irá supervisionar a implementação geral do Projeto, baseado no contrato a ser celebrado entre a JICA e o WLRS, e a JICA irá delegar a implementação do Projeto ao WLRS.
2. A JICA se responsabilizará somente com os gastos que considerar necessários para a implementação do Projeto.
3. A JICA manterá a posse dos equipamentos ou instalações adquiridos pelo próprio para implementação do Projeto, em concordância com as Linhas Gerais do Projeto em anexo, durante o período de implementação.

III. Medidas a serem tomadas pela Prefeitura Municipal de Tomé-Açu e pela Associação Cultural de Tomé-Açu.

1. As autoridades interessadas da Prefeitura Municipal de Tomé-Açu, da Associação Cultural de Tomé-Açu e do WLRS executa em parceria para assegurar uma implementação bem sucedida do Projeto.
2. As autoridades interessadas da Prefeitura Municipal de Tomé-Açu e da Associação Cultural de Tomé-Açu, irão fornecer à JICA e ao WLRS, informações necessárias tais como dados, mapas e documentos que permitam uma implementação eficiente e efetiva do Projeto.
3. As autoridades da Prefeitura Municipal de Tomé-Açu e da Associação Cultural de Tomé-Açu irão fornecer à JICA e ao WLRS, as informações necessárias a respeito dos detalhes das condições de segurança.


Gedeão Chaves
PREFEITO
CPF. 058.295.501-72



4. Quanto aos equipamentos e instalações mencionadas no item II.3, quando os equipamentos ou instalações forem considerados necessários à continuação sustentável e efetiva das atividades da Prefeitura Municipal de Tomé-Açu e da Associação Cultural de Tomé-Açu, a posse dos equipamentos ou instalações após o término do Projeto será considerada e determinada através de consulta das partes envolvidas antes da finalização do Projeto.
5. A WLRS, a Prefeitura Municipal de Tomé-Açu e a Associação Cultural de Tomé-Açu serão responsáveis pela manutenção dos equipamentos e instalações.

V. Consultas Mútuas

Quaisquer assuntos mais relevantes que possam surgir a partir de ou em relação ao documento em anexo será resolvido através de consultas a todas as partes interessadas.

A minuta em versão Inglês prevelece como documento original

ANEXO: As Linhas Gerais do Projeto



Gedeão Chaves
PREFEITO
CPF. 058.295.501-72

Handwritten notes: A, 2/ly, 3/10

ANEXO (I): LINHAS GERAIS DO PROJETO

1. País: República Federativa do Brasil

2. Título do Projeto: "Projeto de Educação Ambiental na Amazônia"

3. Objetivo do Projeto: Promover Educação Ambiental para Conservação da Floresta Tropical

4. Local do Projeto: Município de Tomé-Açu

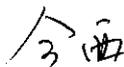
5. Público Alvo: Professores, Estudantes, Agricultores, etc...

6. Atividades do Projeto:

- 1) Elaboração da cartilha de educação ambiental; através de estudo do ecossistema da área do projeto.
- 2) Treinamento para formação de instrutores em educação ambiental;
- 3) Treinamento em educação ambiental ministrado pelos instrutores formados

7. Duração do Projeto: Agosto de 2003 a Agosto de 2006

8. Entidade Executora do Projeto: WLRS



Gedeão Chaves
PREFEITO
CPF 058.295.501-72

